

【言語文化学科 英語基礎学力型】

[ I ]

[ 1 ]	お金の使いすぎや過度な消費は、多くの人にはする余裕のないことである。			
[ 2 ]	屋外広告板がなくなり、人々は自分の町をよりはっきりと見ることができたのだ。			
[ 3 ]	(1)	(2)	(3)	(4)
	d.	a.	b.	a.
[ 4 ]	1.	2.	3.	4.
	c.	b.	d.	a.

[ II ]

1.	2.	3.	4.
b.	c.	b.	b.
5.	6.	7.	8.
c.	d.	c.	b.

[ III ]

1.	2.	3.	4.
a.	b.	c.	d.
5.	6.	7.	8.
c.	d.	b.	c.

[IV]

異なる文化や人びとに対して私たちが抱くイメージやステレオタイプは、異文化を深く理解しようとする際の妨げになると私は考える。

私たちが抱くイメージやステレオタイプは、異文化に興味をもつきっかけにはなる。たとえば、「スペインと言えば闘牛、フラメンコ、街じゅうでトマトをぶつけ合う祭りが有名だ」というイメージは、日本で暮らしてはなかなか出会えない情熱的でエネルギッシュな人々を連想させ、スペインに行ってみたい、スペインの人々と話し、彼らのように振る舞えば、自分も情熱的でエネルギッシュな人間になれるかもしれないという憧れをもつきっかけになるだろう。

しかし、実際に異文化圏の人々と接する段階では、自分の先入観が相手の姿をありのままに見ることを妨げる。たとえば、私はスペイン在住の親戚の家に1か月滞在したことがあるのだが、スペイン生活の初期は、自分の持っていたイメージどおりのスペイン人的な行動が街中で目につき、自分もそれに合わせて振る舞っていた。だが、滞在生活が長くなるに従い、「情熱的でエネルギッシュ」に振る舞う人ばかりでなく、役所・銀行・駅・バルなどでは神経質な人や細やかな気配りをする人に出会い、公園・教会・美術館などでは静かな所を好む人や内向的な人に数多く出会うようになった。そこで気づいたのは、日本人であっても「海外から見た日本人のイメージ」に近い人もいれば、「日本人離れした人」もいるのと同様、スペインにも「ステレオタイプのイメージ」におさまらない人があるのが当然だということだ。私が持っていたスペイン人のイメージは、現実のスペインの人々と付き合う上ではむしろ障害となっていたと思う。

以上で述べたように、異なる文化や人びとに対して私たちが抱くイメージやステレオタイプは、異文化に興味をもつきっかけにはなるが、実際に異文化圏の人々と接する段階では異文化理解の妨げになると私は考える。(794字)